

2011年度第3四半期の概要

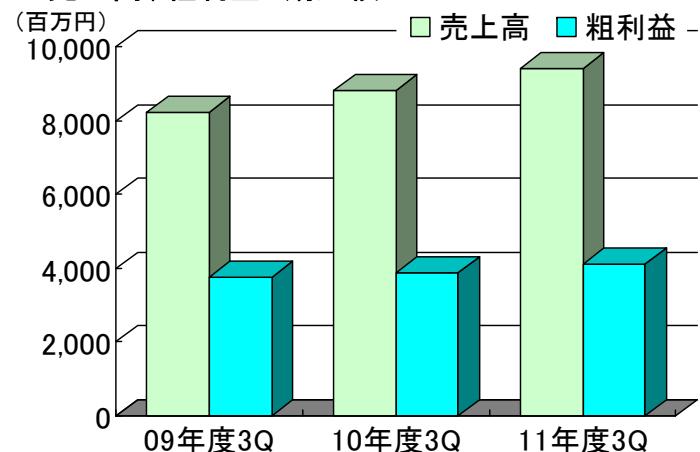
(平成24年3月期第3四半期決算)

《連結：業績ハイライト・PL》 **売上高 589百万円増、当期純利益 204百万円減**

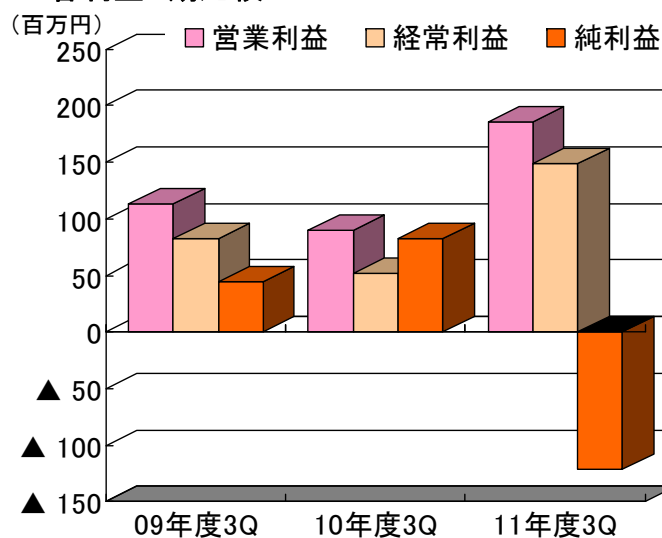
	10年度 第3四半期	11年度 第3四半期	増減	前年同期比
売上高	8,801	9,390	589	6.7%
粗利益	3,868	4,121	253	6.6%
販管費	3,777	3,935	157	4.2%
営業利益	90	186	95	106.1%
経常利益	52	149	96	184.0%
税引前利益	70	169	98	139.1%
当期純利益	83	△121	△204	△45.8%

金額単位：百万円 百万円未満切捨て

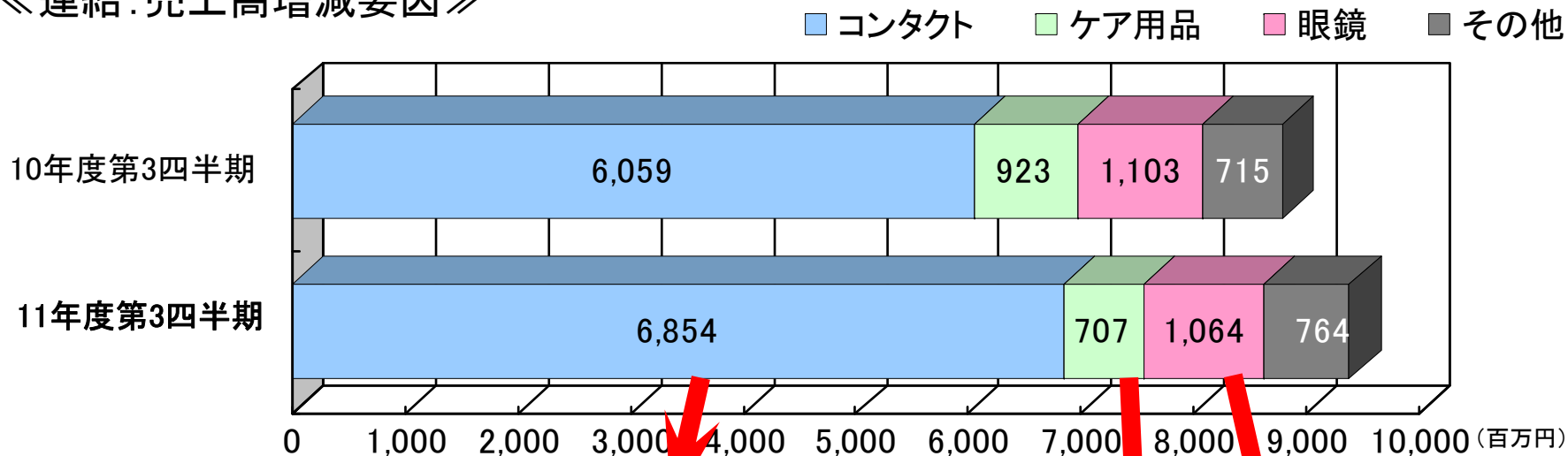
■売上高、粗利益3期比較



■各利益3期比較



《連結：売上高増減要因》



シードワンデーピュア(45.5%増)の伸長
クララ・スーパーEX、クララソフトシリーズ取扱い開始

販売競争激化の影響による大幅減少(23.4%減)

市場の冷え込み、均一価格販売形態の浸透による、
販売価格低下のため減少(3.6%減)

《連結：業績ハイライト・セグメント》

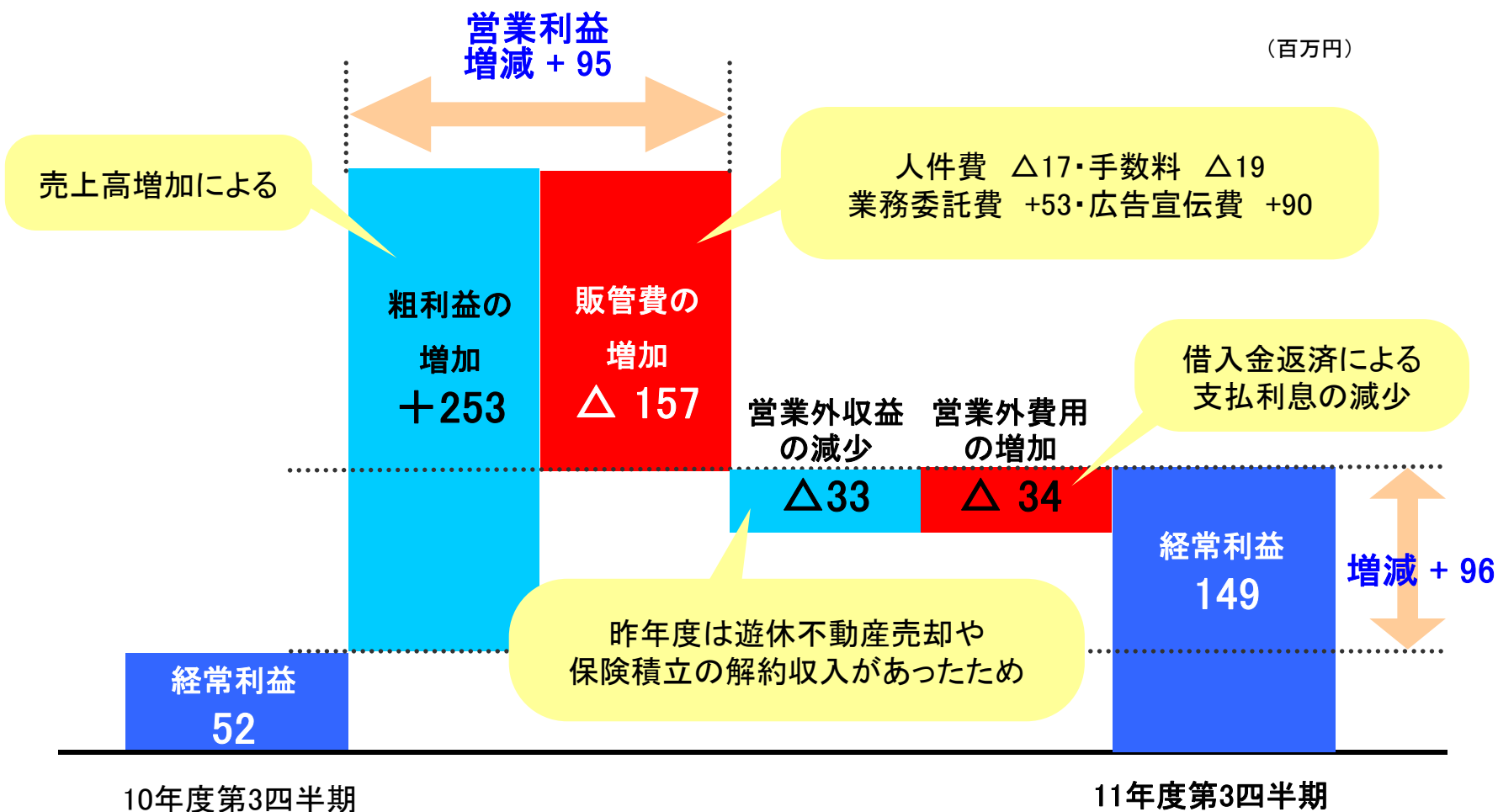
金額単位：百万円 百万円未満切捨て

10年度 第3四半期	コンタクトレンズ・ ケア用品	眼鏡	報告 セグメント計	その他	全社費用	合計
売上高	7,151	1,103	8,255	545	—	8,801
営業利益	323	53	376	△57	△228	90
11年度 第3四半期	コンタクトレンズ・ ケア用品	眼鏡	報告 セグメント計	その他	全社費用	合計
売上高	7,750	1,064	8,814	575	—	9,390
営業利益	447	34	481	△40	△254	186

ケア用品が販売競争激化による影響で大幅な減収となるも、「シードワンデーピュアうるおいプラス」等の伸長や「クララスーパー・オーEX」、「クララソフトシリーズ」の取り扱い開始により売上高増。粗利率も増加し、増益。

小売市場における消費の冷え込みと均一価格販売形態の浸透により、販売価格の低下を余儀なくされたことで、売上高減少。粗利率下落のため、減益。

《連結：経常利益増減要因》



《連結：業績ハイライト・指標、CF計算書》

	10年度 第3四半期	11年度 第3四半期
1株当たり純利益	10.81	△15.76
自己資本比率	(10年度期末) 37.3%	37.1%
1株当たり純資産	(10年度期末) 717.29	701.80
営業活動による キャッシュ・フロー	1,509	876
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 13	△ 485
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 878	△ 695
現金及び現金同等物 四半期末残高	968	694

※発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数 11年度3Q 9,112,000株
 期末自己株式数 11年度3Q 1,409,737株
 期中平均株式数 11年度3Q 7,702,267株

減価償却の内部留保効果と
たな卸資産の減少によるもの

製造ライン増設に伴う
機械設備の購入によるもの

借入金返済と社債の償還によるもの

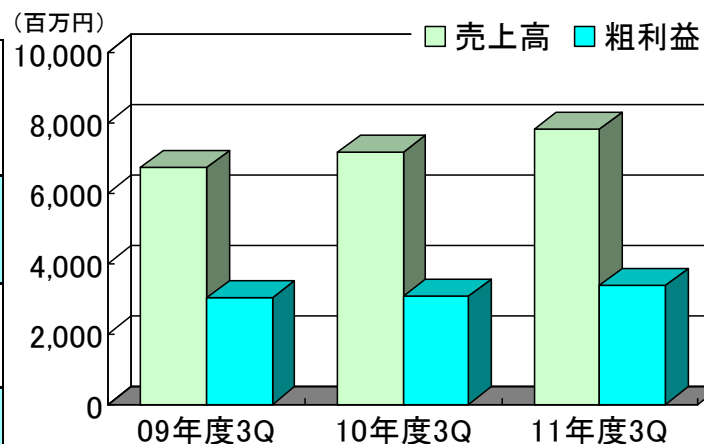
金額単位：百万円 百万円未満切捨て

《単体：業績概況、対比》 **売上高 666百万円増、純利益 273百万円減**

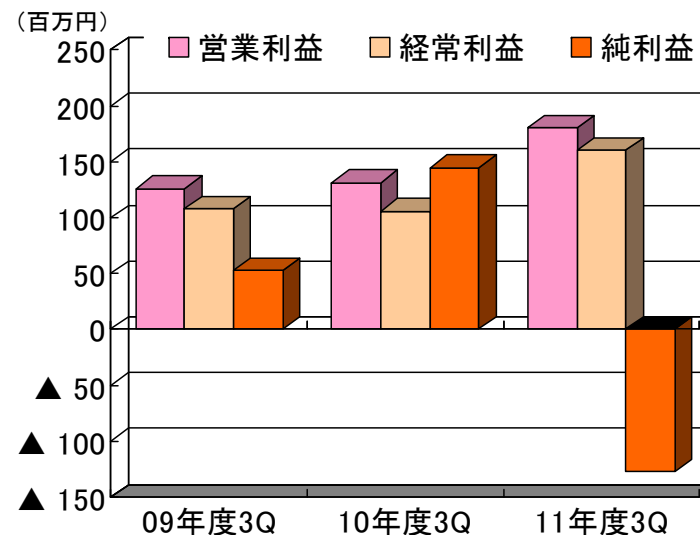
	10年度 第3四半期	11年度 第3四半期	増減	前年同期比
売上高	7,142	7,808	666	109.3%
粗利益	3,078	3,387	309	110.1%
販管費	2,946	3,206	260	108.8%
営業利益	131	180	48	137.1%
経常利益	106	160	53	150.7%
税引前利益	141	153	12	108.7%
当期純利益	145	△127	△273	△87.5%

金額単位：百万円 百万円未満切捨て

■売上高、粗利益3期比較



■各利益3期比較



《連結:2011年度通期見込み》

金額単位:百万円 百万円未満切捨て

	通期見込み	10年度 通期実績	前年同期比
売上高	12,500	11,809	105.8%
営業利益	260	218	118.9%
経常利益	200	164	121.9%
当期純利益	140	114	121.9%

通期見通しにつきましては、当第3四半期以降『シードワンデーピュアうるおいプラス』の投入等により、直近の売上規模が拡大していることに加えて、第4四半期においても眼鏡の新ブランドの投入による増益効果が見込まれます。新製品の初期投入に伴う販促費用等の増加も想定されますが、今般の税制改正、円高の進行や民間需要の回復力停滞により足元の消費動向は極めて不安定であるため、この状況下において通期見通しの変更を行うには妥当性を失う恐れがあり、当初予想数値を据置いております。

本資料に関するお問合せ

株式会社シード 経営企画室

TEL 03-3813-1650

又はホームページお問合せフォーム

<http://www.seed.co.jp/contact/index.html>

当資料の見込みに関しては、現時点において入手可能な情報及び当社の計画・戦略に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の経済情勢・業界動向等、様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。